

東京春祭 歌曲シリーズ vol.32

エギルス・シリンス(バス・バリトン) & マールティンシュ・ジルベルツ(ピアノ)

曲目解説

チャイコフスキーの作品

「祝福あれ、森よ」は、《7つのロマンス》作品 47(1880)所収。孤独な巡礼者は自身を取り巻く世界に祝福を捧げ、静かに旅を続ける。詩はアレクセイ・トルストイ(文豪のトルストイとは別人)。「再び、前のように、ただひとり」は、《6つのロマンス》作品 73(1893)所収。詩は、まだ無名の学生だった詩人ダニル・ラートガウス。深い寂寥感に包まれたチャイコフスキー最後の歌曲。「騒がしい舞踏会のなかで」は、《6つのロマンス》作品 38(1878)所収。詩はA.トルストイ。舞踏会の喧騒のなかで美しい女性に一目惚れしてしまった男の歌。「ただあこがれを知る者だけが」は、チャイコフスキー最初の歌曲集《6つのロマンス》作品 6(1869)所収。ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』に登場する薄幸の少女ミニヨンの詩に付曲したもので、チャイコフスキーのロマンス(歌曲)の中でも最も有名なもの。「ドン・ファン」の「セレナード」は、前出《6つのロマンス》作品 38 所収。威勢よく啖呵を切るドン・ファンの口上を歌う。詩はA.トルストイ。

ラフマニノフの作品

「いや、お願いだ、行かないで」は、1893年に完成した最初の歌曲集《6つのロマンス》作品 4 所収。ロシア象徴主義の詩人デミトリー・メレシュコフスキーによる失恋の歌。「夢」は、1893年作の《6つのロマンス》作品 8 所収。遠い故里への望郷の念を歌ったハイネの詩に付曲している。「昨日私たちは会った」は、1906年作の《15のロマンス》作品 26 所収。ヤーコフ・ポロンスキーの詩をもとに愛の破局を描いている。

ムソルグスキー:《死の歌と踊り》

ムソルグスキーの友人だった詩人ゴレニシチェフ＝クトゥーゾフの詩を用いて、1875～77年に付曲した歌曲集で、4つの「死」が描かれている。第1曲「子守歌」は幼い子供、第2曲「セレナード」は若い乙女、第3曲「トレパーク」は貧しい酔っ払いの老農夫、第4曲「司令官」は戦場に斃れた若い兵士たち。いずれも、語り部による情景描写に続いて、死神が一人称で言葉巧みに死へ誘うという構成をとっている。

エミールス・ダールジンシュの作品

ダールジンシュは、作曲や音楽批評などでラトビアの音楽界に貢献したが、34歳の若さで亡くなった。「その時を、その瞬間を教えて」は、1905年の作。同年代に生きたラトビアの詩人ヤーニス・ポルクスの詩による、恋の諾否を問う歌。「わたしの幸せ」は1903年の作で、素朴な愛の歌。「スペインのロマンス」は、1905年の作。プーシキンの詩によるロマンスで、異国の夜に見初めた美しい女性を讃える。

ヤーゼプス・ヴィートルスの作品

ヴィートルスは、ラトビアの「クラシック音楽の父」と呼ばれ、民族的ロマン主義を主導した。「あの静かな夜を今でも思い出す」は1911年の作。過ぎし恋の一夜を想うセンチメンタルな歌。「聞いて、きれいな目をした少女よ」は1903年の作。19世紀ラトビアの詩人エドゥアルド・ツァイボーツの詩で、愛する娘に若かりし頃の妻の面影を見出すというユニークな内容。「蘭の夢」は1918年の作。同時代ラトビアの詩人フリツィス・バールダの詩による怪奇幻想にみちた歌。

アルフレーツ・カルニンシュの作品

ラトビアの作曲家カルニンシュは、サンクトペテルブルク音楽院でダールジンシュとともに学んだ。「思うに……」は1901年の作。ラトビアの政治家で作家でもあったアンドリーフス・ニードラの詩による、劇的な緊張をはらんだ悲しい愛の歌。

シューベルトの作品

「さすらい人の月に寄せる歌」は、1826年の作。詩は、19世紀オーストリアの詩人ヨハン・ガブリエル・ザイドル。さすらい人が同じく天空をさすらう太陽への憧れを歌う曲。「死と乙女」は、1817年の作。マティアス・クラウディウスの詩による、死神と乙女の対話。シューベルトはのちにこの旋律を弦楽四重奏曲第14番の第2楽章で用いた。「流れ」も、同じく1817年の作。詩人は不詳。シューベルトが友人との別れに際して作曲したとされる。「春の小川のほとりで」は1816年、若書きの作品。歌詞はシューベルトの友人ショーバーによるもので、愛らしい佳品。「魔王」は1815年、ゲーテの詩を読んだシューベルトが一気に書き上げたと言われている。

R.シュトラウスの作品

「献呈」は、演奏会の定番レパートリー。1885年に書かれた《8つのリート》作品10の冒頭を飾る曲で、詩は19世紀オーストリアの詩人ヘルマン・フォン・ギルム。当時、シュトラウスはまだ10代後半だが、その書法はすでに完成されており、優美な旋律が心を打つ。「ああ悲しい、不幸なる者よ」は、歴史学者でもあったドイツの作家フェリックス・ダーンの詩に、1889年に作曲した《5つの素朴な調べ》作品21所収。男の滑稽な妄想をコミカルに歌う。「私はおまえを愛する」は、1898年作曲の《6つのリート》作品37所収。リーリエンクローンの詩による愛の歌で、熱い情熱がほとばしる。